

# 委員の発案で持続可能な集落づくりに向けた毎月15日の話し合いを継続

京都府 宮津市農業委員会 日ヶ谷15日会の取組紹介

## 1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

|                    |     |
|--------------------|-----|
| ○ 農業委員：            | 14人 |
| ○ 農地利用最適化推進委員：     | 10人 |
| ○ 事務局職員：           | 3人  |
| ○ 市町村行政との連携状況：     |     |
| 組織を結合し常時連携を可能としている |     |



## 2 地区の特徴、状況、課題

(市町村の概要) 日本三景特別名勝「天橋立」を有する京都府北部「海の京都」の観光都市  
(地区の概要) 市の最北端に位置した山間地であり、潤沢な水源と良質な土壌から根菜類を中心に豊かな食材を供給  
(地区の課題) 人口減少による担い手不足と、深刻化する鳥獣被害の拡大により農地の荒廃化が加速。加工施設や伝統野菜の後継者を求めている。

## 3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 令和3年11月より毎月1回15日に、農家・非農家・事務局が約20人参加して、地域の将来について話し合いを行い、回数は25回を数える。
- 事務局職員がファシリテーターを務め、会議は「気楽に！楽しく！中身濃く！」をモットーに、グループワーク中心に参加者の意見を取り込み、京力農場プランのスローガンも投票で「広めよう日ヶ谷産品」に決定。担い手・後継者対策として、地元の受入れ体制を整えるため、日ヶ谷のPRパンフレットを作成したほか、移住者や、新規就農者を受け入れる体制づくりを進めた。
- また、農業委員の交代も、話し合いから交流・親睦が深まり円滑に引継ぎが行えた。

## 4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- 市ではプランづくりを目標とせず、手段として捉え京力農場プランづくりも同時に進め、令和4年度末に日ヶ谷地域のプランを作成、現在は地域計画の策定を進める。
- 受入支援組織として、自治会・地域会議・公民館・農業団体などで結成した「日ヶ谷ぐらし応援隊」を設置。集落にある空き家を独自に調査し、所有者とのパイプ役と担うなど今後の本格的な受入れに備えている。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください